

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成30年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体	
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント		団体数	事業数
盛岡	盛岡広域管内流域基本計画	●健全な森づくり 平成30年度の森林間伐面積は1,047haであり、目標値を下回った。近年林業事業者は再造林と下刈作業に作業員を投入していることから、間伐面積の増加は困難な状況となっている。 なお、平成30年度の森林ボランティア参加人数は2934人と目標を達成している。	●生き物や人にやさしい川づくり 平成30年度の身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、昨年度から増加し17団体であった。河川の草刈り団体数について、一定の成果を得ているが、団体数の維持に加え、高齢化の進行に伴う作業中の事故等に注意しながら活動をして頂く必要がある。	●水質の良好な保全 平成30年度は水質汚濁防止率(%)は88.0%であり、目標値を下回ったものの、数値は着実に上昇している。今後とも、本庁や関係市町と連携しながら、更なる水質向上に取り組むこととする。また、平成29年度の河川・湖沼の環境基準達成率及び環境基準未指定河川の水質BOD2mg/L以下の割合(%)は100%であり、良好な水質を維持している。	●環境学習の推進 H30年度の水生生物調査参加団体は前年と同数の37団体であり、目標値を達成している。今後とも参加の呼びかけ等を継続し参加団体数の維持に努めることとする。	●健全な森づくりについては、森林ボランティア参加人数が目標値を達成した。 ●生き物や人にやさしい川づくりについては、身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数が目標値を達成した。 ●水質の良好な保全については、目標値に対して概ね良好に推移している。 ●学校や環境保全団体等が取り組む水生生物調査については、目標値を達成した。	●森づくりについて、森林間伐面積が伸び悩んでいる。 ●森・川・里のそれぞれの活動を繋げる取組み(連携強化)が必要である。 ●環境保全活動団体の中には、人手や資金が不足している団体が多い。また、団体構成員の高齢化がみられる。 ●事業者、団体、住民参加型の研修会を開催し、団体、事業者間の相互理解を図り、相互の事業協力や事業の拡充等につなげる。 ●活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した普及啓発を行う。 ●主な指標項目の目標年度が30年度までとなっている項目が多いため、次期目標設定のための検討が必要である。	●地域における環境保全活動の活性化を目的とした人材の養成を行う。 ●事業者、団体、住民参加型の研修会を開催し、団体、事業者間の相互理解を図り、相互の事業協力や事業の拡充等につなげる。 ●活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した普及啓発を行う。 ●主な指標項目の目標年度が30年度までとなっている項目が多いため、次期目標設定のための検討が必要である。	●地域経営推進費を活用し、環境保全活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用した普及啓発を行った。(パネル、プラカードの作成、ぬいぐるみ贈呈、貸出等)している。	59	85	●森林ボランティア参加数 2,934人(H30目標:2,200人) ●環境保全型農業取組面積 588ha(H30目標:1,000ha) ●農地維持活動面積 73.4% (H30目標:79%) ●身近な水辺空間の環境保全などに取り組む団体数 17団体(R7目標:13団体) ●水生生物調査参加団体数 37団体(H30目標:35団体)
	アテルイの里 水と緑の推進計画	●植樹、間伐等の森林整備事業 協議会構成団体を実施する森林整備事業やボランティア活動等では、植樹公園、植栽地、林道等での下草刈りによる環境整備、22世紀ブナの森づくり事業への参加、水源地である胆沢ダム周辺地での植樹活動(原石山跡地におけるブナ幼木の植樹ほか)など、地域課題に即した活動が推進されている。 また、県(林務部)と管内企業との連携により「企業の森づくり活動」も推進されており、植樹、枝打ち、下草刈等の活動が実施されている。 このほか、東北森林管理局岩手南部森林管理署の働きかけにより、森林ボランティアの林野監視活動(動植物保護巡視、山火事防止)、国有林フィールドでの森林教室等啓蒙活動も実施されている。 引き続き、流域水源地保全の観点から、関係団体の連携協働を進める。	●河川清掃、河川パトロール 協議会構成団体による草刈・清掃、パトロールが多数実施されている。 北上川流域においては河川敷の清掃活動のほか、北上川河口での清掃・交流活動が市民団体、企業、一般、学生等の協働の下で実施されており、引き続き広域連携の視点に基づき活動の継続が望まれる。 また管内の土地改良区によるアドプト協定に基づき、胆江地区の里親団体による用水路やため池周辺の清掃、草刈等が実施され、周辺河川の環境維持に努められている。	●水質保全対策の推進 河川等の水質汚濁を未然防止するため、県(環境福祉環境部)が管内の事業場への立入による排水検査を計画通り実施し、確認している。 生活排水対策として、県土木部及び市、町が公共下水道の整備、浄化槽の設置を進め、水質汚濁防止率の向上が図られている。	●水生生物調査などの環境教育の推進 国(河川国道事務所)、県(振興局)、市、町による環境学習支援として、管内の小中学生、子供会等を対象とした水生生物調査が実施されている。講師として環境アドバイザーを派遣する等、実施機関間で協力体制を構築して実施されている。 また、協議会構成団体においても水生生物調査のほか、水環境保全の大切さを伝える「小学校への出前事業」、農業・林業体験や自然活動を通じた環境学習機会を提供する「みずさわエコキッズ事業」、環境・生態系に配慮した地域のため池保全活動である「田んぼの学校」など、独自の取組みが実施されている。 小学生など、次世代への環境学習機会の提供は、環境保全活動の実施と維持において特に重要な地域人材の育成、確保につながるものであり、継続的な実施が望まれる。	●協議会を構成する各団体の積極的な取組により、森林整備活動、河川環境保全活動、小学生に対する環境学習支援活動等を実施した。 ●河川環境の保全に関する取組では、河川の環境基準達成率(BOD)が100%、工場(製造業)の排水基準達成率が100%と、目標を達成している。 ●普及啓蒙事業として環境交流フォーラムを開催し(企業、一般、環境団体、行政等あわせて70名が参加)、管内事業者による環境保全活動の優秀事例発表のほか、持続的な開発目標(SDGs)の概念をゲーム形式で学ぶ学習交流会をあわせて実施した。	●森林組合、漁業協同組合、ボランティア団体等、協議会構成団体の多くが高齢化に伴う人員不足に直面しており、環境活動を継続的に実施するには人員の確保が課題となっている。 ●環境保全活動に取り組む上で活動経費が少なからず必要であり、活動母体となる協議会構成団体の運営を圧迫している例もあり、活動に資する助成・補助等に関する情報提供、支援を望む声がある。 ●北上川周辺地での不法投棄による、北上川中・下流域へのゴミ流下・堆積は依然として大きな問題であり、海洋におけるマイクロプラスチック汚染の低減に向けた具体的な取組みの一つとしても関係機関・団体の連携・協働の下、北上川流域での堆積ゴミ削減に向けた取り組み体制を維持・発展させることが重要であるが、その一方で活動資金の継続的な確保が課題であり、支援が必要である。	●流域における環境保全活動の重要性に係る普及啓発、優れた取組み事例の掘り起こしと共有、効果的な協働連携体制の構築について、継続して取り組む。 ●胆江地区(奥州市・金ヶ崎町)内で環境保全活動の実績を有する未加入団体(土地改良区の一部や新規ボランティア団体等)について掘り起こしを行い、協議会組織の底上げを図る。 ●マイクロプラスチック汚染対策等、社会的課題に即した活動内容の見直しについても、協議会構成団体との意見調整と連携の下で適時進める。	●構成団体は、高齢化による人手不足等の課題もある中で、流域の環境保全活動に前向きに取り組んでおり、地域の水循環の確保に大きく貢献している。 ●構成団体の特定非営利活動法人 奥州いわてNPO ネットが水と緑を守り育てる知事感謝状を受賞(H31.1.26)	22	22	●造林面積 30ha(H30目標:20ha) ●河川の環境基準達成率(BOD) 100%(R7目標:100%) ●環境保全活動実施団体数 22団体(R7目標:22団体) ●廃棄物不法投棄合同パトロールの実施件数 1回(R7目標:1回)
奥南広域	豊沢川流域ビジョン	●豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動や子供たちを対象とした自然体験学習を行っているほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植樹を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●豊沢川流域の河川清掃 地元住民が中心となり、事業者、行政が協力して、豊沢川流域の河川敷の清掃を実施しているほか、毎年春に豊沢ダム周辺に捨てられた廃棄物の撤去作業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●親水活動の促進 主に子供たちを対象にした川流れ体験、水中観察及び自然観察などや、一般を対象としたラフティングやカヌー指導などの水辺体験が行われている。 また、冬季にも自然観察や雪遊びなどの親子雪上体験も行われており、今後も継続して活動を行う。	●地元住民が組織する「豊沢川活性化・清流化事業推進協議会」を中心として、豊沢川流域や豊沢ダム周辺の清掃活動など自然保護活動や親水活動等が、毎年、継続的に行われている。 また、花巻市内の中小河川においても親子雪上体験も各団体に協力して行われている。	●団体が活動するための資金の調達 ●他の流域との活動連携	●他の流域基本計画が策定された河川流域との連携	●花巻地区の中心となる河川流域であり、これまで、地元住民団体が中心となって様々な環境保全活動を精力的に行っている。 平成30年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめ、今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。 ●水と緑を守り育てる活動知事感謝状 ・北上川フィールドドライフクラブ(平成30年度)	6	32	●森林整備面積 186ha(R6目標:508ha) ●汚水処理人口普及率 89.8%(R6目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (R6目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 406人(R6目標:512人)
	葛丸川流域ビジョン	●森林の保全 森林組合が中心となり、間伐や造林などの水資源涵養機能維持のための事業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、地元住民が中心となって例年実施しているほか、誌館増殖組合が中心となつての稚魚の放流により葛丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●たろし滝の計測、自然とのふれあいの促進 例年、親子で参加する「里山の学校」や、サガ、ヤマメなどの稚魚放流、釣り大会などが開催されているが、中でも、冬に行われる大瀬川上流のたろし滝の水柱測定は、大人から子供までが参加する地域の恒例行事であり、地域の方々や自然との触れ合いの場となっている。 今後も継続して活動を行う。	●たろし滝保存会」及び「葛丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測や淡水魚の繁殖保護活動等を通して、自然環境保護の啓蒙を継続実施している。	●限られた団体のみが活動を行っている。 ●活動の広がりが少ない。	●活動団体の把握と賢治葛丸祭への参加を促進するとともに、他流域との交流を図る。	●たろし滝を中心とした活動や夏場の釣り大会、賢治葛丸祭など、毎年、定期的な行事が行われている。 平成30年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめ、今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。 なお、賢治葛丸祭などの取組を通して、次代をにう流域人材の育成に取り組む必要がある。	●知事表彰 ・大瀬川たろし滝測定保存会(平成20年度環境保全活動表彰(水資源部門)) ●知事感謝状 ・豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成24年度環境保全活動知事表彰(水環境・水資源部門)) ●県内功季(平成29年度環境保全活動知事表彰(自然保護部門))	4	21
稗貫川流域ビジョン	●森林の保全 森林組合が中心となり、間伐や造林などの水資源涵養機能維持のための事業を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川敷の草刈、清掃や淡水魚の放流事業の実施 河川敷の草刈、清掃については、稗貫川漁協が中心となつて、例年春と秋に実施しているほか、稚魚の放流により稗貫川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。	●環境学習の推進 花巻土木センターが主催する「森と湖に親む旬間行」において、湖沼パトロールや魚のつかみ取りなどにより次代を担う子供たちに対する啓蒙を行っているほか、流域の子供たちが参加する自然観察会や水生生物調査が実施されており、今後も継続して活動を行う。	●地元小学校による環境学習が継続的に行われている。 また、毎年7月に早池峰ダムを中心としたイベントが開催されており、次代を担う子供たちに対する啓蒙を行っている。	●リーダーシップをとる団体等がない。 ●地元での活動が一般にあまり知られていない。	●早池峰ダムを中心としたイベントを行い、次代を担う子供たちに対する啓蒙を継続しつつ、流域全体及び他流域との連携した取組を促進する。	●早池峰の環境保全、地元の小学校による環境学習及び「こどもまつり」などの啓蒙活動などが、今後も継続されることが望まれる。 平成30年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめ、今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	●知事表彰 ・早池峰にゴミは似合わない実行委員会(平成13年度水資源功績者等表彰) ●知事感謝状 ・亀ヶ森小学校(平成14年度環境保全功労者知事感謝状贈呈)	4	17	●森林整備面積 186ha(R6目標:508ha) ●汚水処理人口普及率 89.8%(R6目標:90.2%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (R6目標:普通に観察される) ●親水活動参加人数 85人(R6目標:40人)

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成30年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体		主な参考指標(数値はH30年度)
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント		団 体 数	事 業 数	
花巻	猿ヶ石川流域ビジョン	●森林の整備 琴畑高原における「水源の森プロジェクト」において、育林活動(植樹・苗木の成長記録)を年間4回行うことにより水源地の保全に取り組んでいるほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●水辺の環境保全 田瀬湖周辺の河川清掃後に参加者が川柳を詠むことにより環境保全を啓発するというユニークな活動が行われており、平成25年度からは「田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会」として下流域の花巻市民も巻き込んだ活動となっているほか、宮守川、山谷地区などで地元住民による河川清掃や草刈など環境保全活動が行われ、ホテルが集う環境が維持されており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。 また、田瀬ダムにおいてアオコの発生を防ぐため、暴風装置を導入して水質保全に取り組んでいる。	●環境保全意識の高揚 単に野鳥の観察だけでなく多様な総合的な自然観察会の開催や、メダカやゼニタナゴの保護活動を通じて、子供たちや都市部の住民にまで、里山の身近な自然と生き物にふれあう機会が提供されており、また、環境保全に関する、小中学生の標語コンクールや写真コンテスト及び講演会の開催などにより、地域の方々の環境に対する理解を深め、環境保全意識の高揚が図られている。 ●希少生物保護活動 矢沢地域における里山の希少生物保護活動の対象であるゼニタナゴは、平成22年に県の天然記念物に指定・登録されているが、さらなる地域住民の意識醸成に向け、関係者の協働体制を検討している。	●平成23年度に統合した流域ビジョンにおいて、活動指標の一部に未設定の項目があったことから、指標を中心に流域ビジョンの見直しを行ったほか、上下流の活動団体の交流を深めるため、合同の流域部会、研修会等を実施した。	●上流下流の連携体制が深まることが望ましい。	●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通じて交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりバランスを図る。	●花巻及び遠野流域協議会の統合を機に、流域上下流間の団体の連携を図り、研修会、魚類等生態調査などの環境調査を実施してきた。 平成30年度は2月に4流域合同の部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	●知事表彰 ・矢沢地域の自然保護を考える会(平成18年度水資源功績者等表彰) ・矢沢地域におけるゼニタナゴの保護等里山の生態系の保全活動を通じて、地域住民の環境に対する意識の啓発に取り組んでいる。 ・NPO法人環境フロンティア遠野(平成29年度環境保全活動知事表彰(環境保全部門)) ・小中学生を対象とした「環境に関する標語等コンクール」や一般を対象とした「写真コンテスト」を実施し、環境問題を身近に考える機会を創出しているほか、「環境フォーラム」の開催により遠野市環境基本計画の基本理念を普及啓発するなどにより、地域の環境保全活動の推進や環境意識の高揚、次世代への意識の醸成に貢献している。 ・イーハートプ里山水棲生物保存会(平成30年度環境保全活動知事表彰(水環境・水資源部門)) ●環境省水・大気環境局長表彰 ・矢沢地域の自然保護を考える会(平成23年度水・土壌環境保全活動功労者表彰) ●(社)日本水環境学会 ・NPO法人イーハートプ里山水棲生物保存会(2011年度水環境文化賞) ・北風のメダカやゼニタナゴの保護を目指して各種活動を実施。花巻市内に保護と観察を目的としたビオトープ「とうわメダカの里」を整備し、自然観察会などの場所として提供している。	18	44	●森林整備面積 花巻 186ha(R6目標:508ha) 遠野 297ha(R6目標:692ha) ●汚水処理人口普及率 花巻 89.8%(R6目標:90.2%) 遠野 69.5%(R6目標:1%) ●流域の指標生物の観察 普通に観察される (R6目標:普通に観察される) ●観水活動参加人数 花巻 0人(R6目標:1人) 遠野 355人(R6目標:280人)
	わが川流域水循環計画	●森林整備の実施 森林ボランティアによる間伐や枝打ち等のほか、行政や森林所有者、NPO等の民間団体との協働により、間伐等の施策及び植林を実施しており、今後も継続して活動を行う。	●河川清掃活動 和賀川の清流を守る会が主体となって「河川パトロール及び河川清掃」を年2回湖田ダム上下流域で開催しているほか、流域の各地で、流域協議会の構成団体を中心となって河川数の草刈や清掃を行っている。 また、特定外来種の駆除活動等も行っており、今後も継続して活動を行う。	●水質の保全活動 公共下水道、農業集落排水処理施設の整備(接続推進)及び浄化槽の整備により、汚水処理人口普及率の向上に努めている。 流域内の河川・湖沼の環境基準達成率は100%であり、水生生物調査実施地点においては水質階級最高ランクの指標生物が普通に観察されるなど、良好な水質を維持している。 また、用水路の水質検査を実施し、農業用水の水質保全に努めているとともに、地域資源や農村環境を次世代に引き継ぐため、多様な主体の参加による効果の高い共同活動の推進を図っており、今後も継続して活動を行う。	●自然とのふれあい 子供たちが自然にふれあい、その大切さを学ぶ「里山体験やわんぱく教室」や一般市民を対象とした自然探索会などの活動が多数実施されており、今後も継続して活動を行う。 ●和賀川の清流を守る会(事務局:北上市)や湯田ダムビジョン推進協議会と連携を図りながら流域の各種取組に関し、定期的な活動が継続されている。	●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体によるホテル観察会や清掃活動など各団体の取組が定着してきており、構成団体を中心として情報の発信や、各種取組を通じて森や川に接する場を子ども達に提供するなど環境教育活動が継続されている。	●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組が図られるような基盤整備が望まれるが、活動団体が固定化しており、新たな団体の掘り起こしが必要であるとともに、新たな視点からの事業を展開していく必要がある。	●現在行われている環境保全事業を継続しつつ、新しい活動団体の創出という視点からの事業を検討していく必要がある。	●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」構成団体、NPO法人や行政等が、流域計画に掲げる4つの目標に向け、徐々にその成果があらわになっている状況にある。 平成30年度は3月に流域協議会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	●知事表彰 ・川邊弥生(平成30年度環境保全活動知事表彰(地球温暖化部門)) ●知事感謝状 ・NPO法人わが流域環境ネット(平成21年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状) ●国土交通大臣表彰 ・和賀川の清流を守る会(平成26年度水資源功労者表彰)	18	69	●間伐面積 100ha(R6目標:352ha) ●汚水処理人口普及率 88.8%(R6目標:92.3%) ●環境省等水生生物調査できれいな水の指標となる水生生物が確認される割合 100%(R6目標:100%) ●子供たちの「きれいな水を守る活動」への参加者数 703人(R6目標:700人)
一関	いわい地域流域基本計画	●森の整備等 いわい地域の森整備事業などを活用した森林整備を行っている。 児童生徒並びに森林ボランティアに対する林業作業体験の支援及び指導を行っている。 また、間伐等による森林整備の推進と、森林病虫害の駆除とその蔓延防止を行っている。	●河川パトロール、清掃活動等 地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援等を行っている。 また、河川改修の際に、地域住民、各種団体の意見を聞き取り、設備に配慮している。	●環境教育の推進等 各種団体による清掃活動や自然観察会による環境教育活動により、水環境への理解が深まってきている。 ●対象地域内では水生生物調査など、環境教育の取組が実施されている。 ●生物モニタリング調査等 小学校及び中学校による水生生物調査は定着している。	●協議会やその他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、各団体の連携意識が向上している。 ●対象地域内では水生生物調査など、環境教育の取組が実施されている。	●地域のNPO団体等が活動を行っているもの、流域協議会の中核を担う団体又はその代表の発掘と育成が課題となっている。 ●各団体も指導者は高齢化し、団体への新規加入者が少ないことから、次世代のリーダーへの継承が課題となっている。	●対象地域で中心となって活動するNPOの育成と、これらの団体の連携を図る。 ●新しい流域基本計画に基づいた、協議会の統合を目指す。	●地域住民が主体となった、健全な水循環の確保に向けた取組が、継続的に進められており、目標達成に向けて相応の効果が見られてきている。	●知事感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成21年度水と緑を育てる活動知事感謝状) ●局長感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	45	75	●森林面積 82,674ha(H30目標:82,995ha) ●間伐実施面積 318ha(H30目標:1,010ha) ●川のボランティア活動数(団体数) 34団体(H30目標:34団体) ●水生生物調査団体数 8団体(H30目標:15団体) ●河川のBOD環境基準達成率 100%(H30目標:100%) ●水産人口割合 (一関市) 60.1%(H30目標:64.0%) (平泉町) 59.8%(H30目標:69.2%) ●環境アドバイザー利用団体数 16団体(H30目標:14団体)	
	釜石・大槌地域流域ビジョン(唐丹流域)			●地域の清掃 構成団体である町内会が実施している。	●構成団体である町内会単位で清掃活動や樹木の選定作業を実施している。	●構成団体単位では活動していることから、今後は会が中心となり活動を取りまとめる必要がある。	●流域ビジョン改定に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●課題に同じ。	●知事感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成21年度水と緑を育てる活動知事感謝状) ●局長感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	21	0	●水生生物調査参加団体数 0団体(H30目標:10団体)	
沿岸広域	釜石・大槌地域流域ビジョン(鍋巻流域)		●河川の清掃活動 震災の影響を克服し、活動を再開している。	●トリアスロン大会に伴う芝刈等の美化活動 震災の影響を克服し、活動を再開している。	●活動を再開しているため今後も支援が必要。	●構成団体及び地域の多くが震災により被災していることから、活動可能な団体の確認と再構築が必要。なお、流域ビジョン改定に向けた情報共有も必要。	●流域ビジョン改定に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●局長感謝状 ・鍋巻地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	42	2	●水生生物調査参加団体数 2団体(H30目標:10団体)		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(大槌・小槌流域)	●育樹活動 実施なし。	●河川・漁港清掃活動 実施なし。	●環境塾(水生生物調査)の実施 実施なし。	●活動なし(震災により、活動団体及び地域が被災。)			●局長感謝状 ・大槌・小槌流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	61	1	●水生生物調査参加団体数 1団体(H30目標:10団体)		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(吉里吉里・浪板地域)	●EM液投入 実施なし。	●海岸一斉清掃 実施なし。	●町内各小学校へのプール清掃への支援 実施なし。 ●EM泥団子作り、泥団子の投入 実施なし。				●局長感謝状 ・吉里吉里・浪板地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	57	0	●吉里吉里海岸海水浴場調査 水質AA(H30目標:水質AA)		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(甲子川・小川川流域)		●環境パトロール 釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)で実施。	●清掃活動 構成団体である町内会単位で清掃活動を実施している。	●平成31年3月に、釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)の環境パトロールを行った。	●継続的に自立運営していくための財源がない。また、独自の会計機能を有していないため、各助成金等を受けることが出来る組織作りが必要。 ●構成団体、活動内容の見直しが必要。	●各構成団体間の取組みの連携を図る。 ●流域ビジョン改定に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●地域住民が主体となった清掃活動が行われる等、目標に向けて概ね順調に活動している。一方で、活動に関わるメンバーが固定化されているため、活動内容の見直し、各団体、個人への周知の仕方考える必要がある。	●局長感謝状 ・甲子川・小川川流域環境保全の会(平成22年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	55	3	●水生生物調査参加団体数 2団体(H30目標:10団体)	



森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成30年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体		
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント		団体数	事業数	主な参考指標(数値はH30年度)
大船渡	大船渡市三陸町地域流域基本計画	●森林等の水源かん養機能の向上・保全 豊かな海を育む大きな森づくり事業により、ケヤキ、エンジュ(1,050本)を植樹した。			●環境教育・環境学習の推進 水生生物による水質調査参加人数は、指標を下回り、減少傾向が続いている。	●大船渡市三陸町地域の美しい水環境をつくり守る協議会を2回開催(平成30年12月6日、平成31年2月28日) ・22指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは12指標であった。 ・流域基本計画改定(2019～)に係る協議を行った。	●活動団体の解散等により、個人や団体による地域での活動実態が分かりにくくなっていること。	●地域の環境保全活動の集約に努めること。 ●地域横断的に活動する団体を育成すること。	●健全な森林づくりや清らかな河川づくりの取組は、概ね順調に推移している。 一方で、環境を守る人々についての取組は震災等の影響により、海側での活動が停滞している。		17	9	・水生生物による水質調査出前講座受講生徒数 0人(H30目標:60人) ・植林本数 1,050本(H30目標:2,100本)
	大船渡湾水環境保全計画		●河川環境の保全 県(土木センター)が河川環境維持活動団体6団体に活動に必要な作業用品等を支給し、のべ514人が河川敷の草刈り清掃、支障木伐採及びごみ拾いを行った。		●水生生物による水質調査等 水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。総参加人数は136人で指標を下回っているものの、平成29年度と比較して増加している。引き続き調査の支援や参加団体の掘り起こしを行っていく。	●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(平成30年7月6日) ・重点施策の平成29年度取組実績及び平成30年度取組計画を報告 ・今後の協議会活動の課題や方向性等について意見交換 ・56指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは31指標であった。	●大船渡湾の湾口防波堤が復旧したことにより、湾口部の地形が再び変化した。また、湾内の水産養殖施設の復旧に伴い、海水交流及び水質の変化について継続的に監視していくことが必要である。このことを見据えながら、今後の協議会の活動や方向性を再構築する必要があること。 ●震災の影響で実施できていない重点施策があること。 ●地域横断的に活動する団体が少ないこと。	●森林等の水源かん養の向上・保全 や水辺の多様な生態系の確保については概ね順調に進んでいるものが多いが、生活・産業排水対策の推進も同時に進めていく必要がある。	●一般社団法人CEPAジャパン 大船渡市立末崎中学校(生物多様性アクション大賞2016特別賞(グリーンフェイヴ賞)を受賞)	14	20	・水生生物調査参加人数 136人(H30目標:200人) ・河川環境維持活動団体参加者数 514人(H30目標:400人以上)	
	気仙川流域基本計画			●森川海をフィールドとした環境活動の推進 ・住田町の森林体験教室(12回開催)や町民総参加による河川清掃等、森川をフィールドとした環境活動は活発に行われている。 ・海をフィールドとした環境活動については、震災からの復旧・復興途上にあることから当面実施困難な状況にある。 ●自然環境の活用推進 ・陸前高田市の生田地区コミュニティ推進協議会では立教大学との林業体験等地域の特色を活かした各種体験活動を実施し、間伐・植林を目的としたグリーンツーリズムや稚親栽培の促進等も計画している。 ・震災被害が大きかった地域においては、復旧・復興途上にあることから当面実施困難な状況にある。	●気仙川流域基本計画推進協議会を1回開催(平成30年12月6日) ・重点施策の平成29年度実績と平成30年度計画を報告。 ・73指標中、目標を達成又はほぼ達成したものは33指標であった(調査中除く)。	●活動団体や地域が被災したことから、特に海側における活動の大部分が休止している状態であること。 ●地域横断的に活動する団体が少ないこと。	●復興事業の進展により生活環境等が変化しているため、計画期間中も重点施策の見直し等を行っていくこと、協議会の活動や方向性等を検討していくこと。 ●地域横断的に活動する団体を育成する。		19	69	・森林体験教室等の参加人数 489人(H30目標:60人) ・炭焼き体験参加人数 20人(H30目標:100人)		
宮古	宮古・下閉伊地域流域ビジョン	●植林、育樹作業 管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多く、市町村の広報等を通して参加者を募るなど、活発に活動している。	●河川清掃、海岸清掃 東日本大震災津波や平成28年台風第10号災害により清掃活動を行った住民が被災したことや、河川や海岸の災害復旧工事が継続していることにより、活動が低迷する状況が依然として続いている。 しかし、震災後も積極的に清掃活動を行っている団体もあることから、河川及び海岸清掃活動を震災前の水準に戻すために、これらの団体への支援を続ける。 ●災害で被災した河川、海岸、山林、農地の復旧 東日本大震災津波及び平成28年台風第10号災害からの復旧は、被災した各地において、着実に進捗している。	●汚水処理施設の整備促進 汚水処理施設整備率はH29年度末において71.8%であり、上昇傾向にある。今後も、汚水処理施設整備率が低い地域における浄化槽の整備や、集合処理区域における接続率の向上に向けた普及啓発活動を行う。	●地域経営推進事業「いわて三陸ふるさとの魅力再発見事業」 沿岸部管内の5団体に、三陸ジオパークの普及啓発活動等を盛り込んだ環境体験学習の実施を委託し、環境調査、地層や化石の観察等を実施。(7月～10月、参加者101名) 講師による基調講演や事業委託団体による事例発表を実施することで、環境活動の現状と課題について情報共有・意見交換を行った。(平成31年2月15日、参加者49名) 令和元年度は同様の事業に併せ、宮古地域の取組を沿岸局全体に広める事業も行う予定である。	●流域基本計画においては、4つの目指すべき域像を掲げ、達成状況を100の指標で評価している。平成30年度はこれらのうち7つの指標について目標を達成した。地域経営推進費事業により次世代を担う子どもたちの環境意識が高まり、また、環境関係団体の情報共有を図ることができた。	●間伐面積が目標を下回っており、また、宮古・下閉伊地域でもナラ枯れが発生している。震災や台風被害により住民が被災し、災害復旧工事も継続していること等により、河川清掃回数が目標を下回っている。 ●間伐やナラ枯れへの対処については、今後、関係者が協力して対応していく。また、目標を達成していない指標についてはフォローアップを継続していく必要がある。	●平成30年度宮古・下閉伊地域「森・川・海」保全・創造功労者表彰 *宮古市地域婦人団体協議会	84	100	・河川清掃ボランティア回数 13回(R3目標:19回) ・海岸清掃ボランティア回数 15回(R3目標:33回) ・植樹活動・森林体験学習等の実施回数 19回(R3目標:15回) ・エコファーマー認定者数 47人(R3目標:50人)		
東北広域	久慈地域流域基本計画	●森林教室、植樹活動 森林の持つ公益的機能を再認識し、啓発活動を実施するとともに、その環境を適切に保持していく。協議会等の中で情報共有を行い、民間問わず各団体がより一層連携して活動していけるよう支援を行っていく。	●河川、海岸清掃 多くの団体が自主的に活動しており、平成30年度は延べ33,434人が清掃活動に参加した。 今後も各団体及び地域住民が主体となって取組を継続していく。	●水質保全活動 公共用水域や事業場排水の調査により、将来にわたる水質環境の保全に努めている。また、公共下水道・集落排水施設への接続や浄化槽設置の推進等による汚水処理人口普及率の向上に努めている。 平成30年度は河川水質の環境基準(BOD・COD)達成率及び家畜糞尿物管理施設整備農家率が100%のまま現状を維持することができ、汚水処理人口普及率も昨年度より向上した。今後も、行政が主体となって取組を継続していく。	●水生生物調査、環境講演会 水生生物による水質調査を実施し、自然環境に対する理解を深めるとともに、教員を対象とした「水生生物指導者研修会」を開催することで、教育現場における環境教育の普及啓発に努めている。 また、中高生を対象とした環境業務セミナーを開催し、環境分野の仕事の内容・やりがいを紹介することで、若年層への働きかけも行っている。 今後も、行政主導の取組を行いつつ、各団体及び流域の住民と協力し、活動を継続していく。	●昨年度と比較し、清掃活動の回数が増加していることから、環境保全に対する意識の向上と活動の継続が見られる。 ●水生生物調査の普及啓発活動、出前講座、指導者研修会を引き続き実施し、環境教育の推進を図っている。 ●中高生を対象とした環境業務セミナーを開催し、昨年度の課題であった次世代の育成にも取り組んだ。	●流域協議会を開催し、取組状況等を報告してもらい、団体間の情報共有を図る。 ●中高生向け環境セミナーについて、開催後のアンケートで高評価であったことから、引き続き開催し、次世代の育成に努めていく。	●以上の成果のとおり、多くの団体において継続的な活動が行われており、目標に向けて概ね順調に推移しているといえる。 今後も、活動支援及び若年層への働きかけに努め、目標達成に向けて取組を行っていく。	●環境大臣表彰 ・大野の自然を守る会(洋野町)(平成29年度地域環境美化功績者表彰(環境大臣表彰)) (取組内容) 長年にわたり河川の清掃活動を継続して実施している他、源流探訪会や雑魚放流等を通じ、地域の環境美化意識の向上に貢献している。	44	243	・清掃ボランティア回数 153回(R3目標:510回) ・いわて地球環境にやさしい事業所認定数 6団体(R3目標:5団体) ・森林面積 89,503ha(R3目標:89,937ha) ・自然観察会等回数 93回(R3目標:77回) ・河川水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(R3目標:100%) ・汚水処理人口普及率 82.2%(R3目標:84.0%) ・家畜排せつ物管理施設整備率 100%(R3目標:100%)	
二戸	カンオヘア連邦流域ビジョン	●健全な森林づくり 平成30年度は40haの間伐を行った(累計8,474ha)。いわての森林づくり県民税を活用した「県民参加の森林づくり促進事業」の一環としてカンオヘアフォレストスクール事業を実施し、森林学習会(13校、19回、児童延べ478名)開催に講師派遣等の支援を行った。 今後も同様の取組みを継続する。	●健全な川づくり 地域住民や川を守る会、漁協、土地改良区、市町村が、河川や農業用水路等の草刈り清掃活動、個々に、又は協働で取り組んでおり、今後も同様の取組を継続する。	●良好な水質保全 公共用水域水質測定計画に基づき水質測定を行った二戸管内7河川10地点については、環境基準(BOD)を達成し良好な水質を維持した。 特に、森林学習と水生生物調査の取組「水質測定人口割合」は着実に伸びている。 今後も水質保全の活動を継続する。	●環境学習の推進 管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クリーン清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。 特に、森林学習と水生生物調査の取組には環境団体と行政(県・市町村)が連携して支援している。 また、地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」を開催し、特に若年層を中心に地域住民等への情報発信と人材育成に努めた。 県境不法投棄事業の発生した地元として、事業を風化させないために地元高校生を対象に、不法投棄事業に係る出前授業を実施した。 今後も環境学習の推進に取り組んでいく。	●地域の森林や河川等に関する学習が管内の小中学校全てで取り組まれているなど、地域の自然環境を生かした環境学習が推進されている。 ●水生生物調査や公共用水域水質測定の結果、管内河川では良好な水質が維持されている。 ●平成27年度から地元環境団体と協同開催している環境フェスティバルも定着してきており、参加者が年々増加している。	●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられる。 ●環境フェスティバルも参加者は増えているが、マンネリ化を防ぐため、展示、体験コーナー等の内容について検討が必要。	●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。 ●情報の共有を図り、連携し協働することにより、効果的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。 ●多様な年齢層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。		21	48	・森林間伐面積・累計 8,474ha(R7目標:16,783ha) ・多自然型川づくりによる改修・整備済延長 19.7km(R7目標:25.6km) ・BOD環境基準達成率 100%(R7目標:100%) ・水質人口割合 47.3%(R7目標:53.8%) ・環境保全型農業直接支払制度における岩手県特認取組等数 0(R7目標:1) ・小中学校の環境学習実施校割合 100%(R7目標:100%) ・青少年の環境保全実践活動等参加団体数 34(R7目標:30)	